

## 第 II 部 Q2004 提出論文(翻訳)

### 2. 歓迎挨拶

(第 1 セッション:開会にあつたての全体会議, 2004 年 5 月 24 日)

**ドイツ統計局長 Johann Hahlen**

Grüttner 大臣様, 同僚諸君, 皆様

Q2004 としても知られている, 政府統計における品質と方法に関する欧州会議にあたって, 皆様に歓迎することは私にとって大変な喜びです。50 カ国以上からの 500 人近い参加人数は, すべての私たちの機関における統計的作業にとって品質が主要な関心事であることの見表です。Q2004 が世界中から, そして非常に多方面の専門的関係からの人々を結びつけたことはとても良い兆候です。皆様の参加に感謝いたします。そして, 欧州連合統計局による財政的な支援だけでなくプログラム委員会の仕事に対して特に感謝いたします。この会議が組織できたのも主としてこの支援があったためです。

会議開催にあたって, 少し過去を振り返る機会を私に与えてください。この会議は統計の品質という分野における私たちの共同的努力の成果の 1 つです。2001 年 9 月に私と欧州統計システム (ESS) の他のすべての事務総長が私たちが共有する品質宣言に署名したときのことを今でも私は覚えています。同時に, 品質に関する指導的専門家グループ, いわゆる品質に関する LEG からの最終的な報告と勧告に私たちは署名しました。Q2004 は LEG によって起こされたもっとも目に見える行動でしょう。しかし, 私たちは多くの他の努力がそれ以来始まったことを忘れるべきではありません。この努力の多様な結果がこれからの 2 日間で発表されることでしょう。

Q2004 が, 2001 年 5 月にストックホルムで開催された政府統計における品質に関する国際会議, いわゆる Q2001 の直接の前身であることに言及しておくことは重要です。Q2001 は欧州統計システムの体系的で調和的な品質の管理のための出発点と考えられます。この理由で, 私のスウェーデンの同僚である Svante Öberg 氏がこの全体開催セッションの招待発表者の 1 人として受け入れられたことに私は特に幸せを感じます。ストックホルムでは多くの組織が体系的な品質の研究の起ち上げに関する概念を発表しました。この会議で私たちは Q2001 が品質について考える道を作り出したと言えるでしょう。品質に関する LEG の最終報告は多くの分野における品質の管理に関する青写真となりました。

この機会を使っていくつかの印象的な進展の概要を述べさせてください。プログラムをざっと見た上で私は少なくとも 4 点言及したいと思います。

- 第 1 に, 統計データの利用者にはより重要な役割が与えられてきました。利用者の要求

への注目が私たちの仕事の試金石になったことを ESS の品質に関する私たちの宣言の中で述べました。

- 私が言及したい第 2 の進展は非標本誤差に関する研究に関わります。非標本誤差は今ほとんどの統計機関の標準的な話題となってきました。
- 第 3 に、統計の評価に使うことの出来る道具が現在、より精巧で完全になっています。今、その道具を使うときがきている。しかし、欧州連合統計局における品質の管理者の持ち場が何ヶ月も不在となってきた事実を鑑みると、好結果の実行は遅れるかもしれません。
- 最後に、政府統計と学術的な統計学との間の協力改善があります。この点では、Q2004 の最も重要な特徴は、この会議プログラムにある「新しい欧州情報社会における複合調査のデータの品質」(DACSEIS) 計画の最終会議との統合です。

プログラムへの印象的な寄稿をみると、統計における品質の課題は「成長」してきたと言えます。

しかし、少なくとも重要な多くの分野において、私たちは依然としてもっとも重要な段階を踏まなければならない、それは新しい道具と方法を実践に移すことです。この理由では、私たちの努力を強化し、品質に関する LEG の 22 の勧告が採用されることを確かにすべきであると私は思います。

最後に、Q2004 についての反応は品質と方法に関する定期的な欧州会議に対する本当の必要性があることを示しています。Q2004 は最初の重要な段階です。しかし、Q2006、Q2008 等が続かなければならないでしょう。このような欧州の方法論会議は国家統計機関によって組織されるでしょう。

私たちの招待客として皆さんをマインツにて歓迎できて私はとても幸せであることをもう一度表させていただきます。皆さんにとって成功した会議となることをお祈りいたします。

ドイツと同時にマインツでの滞在をどうぞ楽しんでください。